



黒潮の子ども応援隊

—子どもを支える住民応援団—

◆ 頑張っている人物やグループを
広報編集委員が紹介します。：担当/島崎 則彦

30歳から85歳まで赤岡町の幅広い住民で組織され、赤岡小学校の支援活動続ける「黒潮の子ども応援隊」。隊長の西内正澄さんと運営委員長の中川弘枝さんに、取り組みを伺った。

初めての体験

「見て見てーシイタケはこんなに生えるがや。知らなかった」「ここにもいっぱい生えちゆうで」。歴史の丘公園北裏のシイタケ栽培園で子どもたちの歓声が上がります。全校生徒125人で菌を植え付ける駒打ち作業。一人一本ずつ用意された「ほた」(栽培用の木)は昨年3月、ボランティア20数人で植の木に穴を開け準備したものだ。

「ほた」がまだ若いいき今は少ないが、秋にはどっさり生えるろう」。西内さんは期待を込める。

隊員は児童数の2倍

ほたの準備は、応援隊の中の「環境整備隊」のメンバーが中心に行った。ほかに「学習支援隊」「スポーツ健康隊」「黒潮っ子安全隊」と、計4つの分隊がある。さらにそれらは12の班に分かれ、活動内容に応じて連携を図っている。

登録総数は、なんと150人。延べ人数250人は、児童数の2倍近くにもなる。ホスター



地域全体で赤岡小学校を盛り上げていきます

西内正澄さん

で隊員を募った後、中川さんらが個別に説明に向き、徐々に賛同者を増やした。地道な活動が実を結んだ。

「学校に行くのが生きがいよね」。学習プリントに丸付けをしながら、85歳の女性かほほ笑む。「足し算と掛け算が交ざったが、頭の体操になるねえ。昔を思い出しながら子どもと一緒に楽しんでいる。

地域の教育力

「昔のおんちゃん、おばちゃんのように関わってもらい、つながりが深まる。それがあるがたい」。赤岡小学校の先生は、応援隊の活動に感謝する。

地域の教育力は、住民が地域の子どもの名前をどれだけ知っているか、で計れると言われる。都市でも地方でも、子どもどころか近くに住んでいる大人同士でも名前を知らないことが少なくない時代に、ここ赤岡町の地域の教育力は、着実に高まっています。

中川弘枝さん



子どもの元気な姿を見るのが楽しみです

【お詫言ひ】
3月号裏表紙「香南のお花見スポットの中で「三浦公園の桜」と表記していましたが、正しくは「西川花公園の桜」です。訂正してお詫言ひいたします。

編集後記

▼ 思い起こせば4年前、戸惑いと不安を抱えてやって来た秘書広報係。苦手の編集作業に苦勞しながらも、香南の「今」を伝えたい思い一心で、今月号まで携わらせていただきました。

広報誌は、市役所からの一方的な情報だけでなく、さまざまな角度からテーマを取り上げ「市民が考え行動する」ところに意義があります。記事を読んだ市民の方からお褒めの言葉をいただいた時には、仕事冥利にすぎました。

また、取材を通して知ることができた市民の方との出会いは、私の財産です。これからも広報で培った広い視野をもつて、常にまわりの変化に目を向け、人とのつながりを大切に、気持ち新たに精進してまいります。

今後とも広報「こうなんNOW」のご愛読をよろしくお願い致します。4年間どうもありがとうございました。

(近森紳也)

《広報へのメール》
kouhou@city.kochi.konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi.konan.lg.jp